2023年10月1日現在

登録番号　第　5655　号

アグレプト®水和剤

特長：　●ストレプトマイシン剤で野菜、果樹などの細菌性病害に優れた効果を発揮します。

アグレプトは三井化学クロップ＆ライフソリューション㈱の登録商標です。

有効成分	ストレプトマイシン硫酸塩・・・25.0% （ストレプトマイシンとして・・・20.0%）	包装	100g×100 500g×20
性状	類白色水和性粉末	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】　2023年4月1日付内容

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを 含む農薬の総使用回数
りんご	枝枯細菌病	2000倍	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内
なし	枝枯細菌病	2000倍	収穫75日前まで	3回以内	散布	3回以内
もも	せん孔細菌病	1000～2000倍	収穫60日前まで	2回以内	散布	2回以内
すもも	黒斑病 かいよう病	1000倍	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内
うめ	かいよう病	1000～2000倍	収穫90日前まで	2回以内	散布	2回以内
ｷｳｲﾌﾙｰﾂ	かいよう病 花腐細菌病	1000倍	収穫90日前まで	4回以内	散布	4回以内 （樹幹注入は1回以内）
さるなし	花腐細菌病	1000倍	開花前	2回以内	散布	2回以内
ｷｬﾍﾞﾂ	黒腐病	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
はくさい	軟腐病	1000～2000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
ﾚﾀｽ	腐敗病	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
こんにゃく	腐敗病	1000～2000倍	収穫30日前まで	6回以内	散布	6回以内 （種いもへの処理は1回以内）
たまねぎ	軟腐病	1000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
ばれいしょ	疫病	1000～1500倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内 （種いもへの処理は1回以内）
	軟腐病	1000倍				
	そうか病 黒あし病	60～100倍	植付前	1回	5～10秒間種いも浸漬	
たばこ	立枯病	1000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布又は株元灌注	2回以内

使用上の注意事項

⑴ 石灰硫黄合剤との混用はさけ、また、ボルドー液を混用する場合は使用直前に混合すること。
⑵ 本剤の使用により薬害としてクロロシス（黄化現象）を生じることがある。特に高温多湿時には薬害を生じやすいので留意の上散布すること。
⑶ 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる薬剤を組合せて輪番で使用すること。
⑷ ばれいしょの種いも消毒に使用する場合は下記の事項に注意すること。
　1）萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理すること。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温が低い地域では注意すること。
　2）浸漬処理が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害が生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守すること。
　3）薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させること。
　4）種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行うこと。
　5）薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しないこと。
⑸ はくさいにおいては、高温時又は幼苗期には薬害の影響が大きいので、この時期の使用はさけること。
⑹ キウイフルーツの花腐細菌病に使用する場合は、出蕾後～開花期までが散布適期であるので、時期を失しないよう散布すること。
⑺ レタス及びキャベツに対しては、薬害を生じやすいので、高温条件下での連続散布はさけること。
⑻ なし及びりんごに対しては、重複散布や多量散布は薬害を生じる場合があるので、所定濃度を厳守すること。
⑼ 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

⑴ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
　眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
⑵ 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
　作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
⑶ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
⑷ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。